

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもの活動に必要なスペースが十分に確保され、子供たちの活動に合わせた空間になっている。かりがね公園にも隣接しており、十分な運動量を確保できることへの保護者の満足度が高いこと。	広々とした空間で、自由に活動できるが、その分活発に動き回れるため、備品の配置など安全面に気を付けている。また、活動内容によりエリア分けをして、落ち着ける空間の設置にも配慮している。子ども達の安全意識向上を目的として、こども会議を利用し、怪我や事故につながりやすい遊び方などの話し合いも定期的に行っている。	2025年4月より系列事業所（生活介護）が近くに完成。交流により、新たなスペースの活用が可能となる。構造上、バリアフリーについては不十分な場所も多い。危険と思われる個所への、こども達の付き添い、見守りを職員間で共有しさらに危険防止に配慮してまいります。

2	子どものことを理解し、特性に応じた個別支援計画が作成され、固定化しないプログラムが提供できているの保護者の満足度が高いこと。	障害特性についての研修、職員間での事例検討会議、日々の子どもたちの行動などの情報交換を密にする、などを特に意識して行っている。プログラムは、職員全員で5領域を意識しながら交代で作成し、マンネリ化しないように注意している。職員間で意見を交換し、子どもが楽しく安全に活動できるプログラムづくりを心掛けている。外出先での体験を通して学ぶプログラムを多く取り入れている。	障害特性について研修を行い、職員の資質向上に努め、より質の高いプログラムの作成に努めます。
3	保護者や子供に対して、共感的に支援を実施できていることへの、保護者の満足度が高いこと。	「障害者虐待防止チェックリストの職員セルフチェック」を年2回職員に実施し、利用者に対する態度（行動や発言）の振り返りができるようにしている。また、朝礼での事業所の理念と使命の唱和など、日々共感的な態度で接するよう意識している。	チェックリストの集計を、職員に共有し、望ましくない対応の項目などについて再確認する、日々の支援の中で気になる対応について助言しあうなど、今後もより良い支援を行えるように努めてまいります。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者同士の交流機会の少なさについて、保護者の評価が低いこと。	毎日の保護者への引き渡しの時に、活動の内容や状況をお伝えしたり、Instagramの発信回数を増やすなどの工夫をしてきた。しかし、対面で事業所としての活動方針や、プログラムの目的などを共有する機会が少なかった。	アンケート回収後、保護者からの意見を取り入れ、2025年3月29日、一年の活動内容の映像を使い保護者との交流会を開催。次年度より、年2回は保護者との交流会を開催していく。
2	家族支援プログラムや家族も参加できる研修会や情報提供についての保護者の評価が低い。	家族支援については、相談の申し出に応じて随時対応しているが、計画的な研修会やプログラムは実施できていない。	保護者と共に障害特性について学ぶ研修会の企画や、ペアレントトレーニングなどのプログラムを検討してまいります。障害福祉サービスなどの情報提供は引き続き行ってまいります。

3	職員の定着について、保護者からの不安の声があること。	結婚、体調不良などによる退職もあったが、一身上の都合の理由による退職も複数名あった。退職者の挨拶等の連絡が保護者にされなかったなどが、不信につながった面もあると思われる。	職員の資質は担保しつつ、職員の定着につながるよう、職場の勤務条件の改善を図ります。また、風通しの良い職場環境づくりを工夫してまいります。定期的な保護者との交流会等で事業所の状況を理解していただき、安心して預けて頂けるように努めます。
---	----------------------------	---	--